

右の言葉は、蓮如上人の『御文章』の一節をもとにしたものです。延徳4年(1492)に疫病が流行し、多くの人々が亡くなったことを受けて、上人はこれをお書きになりました。

いま現在、世界中で新型コロナウイルスに感染して多くの方が亡くなっておられることを思うと、たいへん厳しい言葉です。しかし、蓮如上人は、決して、亡くなった方やその家族の心情を無視されたわけではなく、また、医療の努力を無駄なことだとしてこのようなことをおっしゃったのではありません。

生まれてきたものは、必ず死んでいくという、いのちの真実を鋭く指摘されているのです。

しかしその真実を受けとめられないのが私の現実です。そのような私であることを見抜き、そのままの姿で救うと今ここではたらいしておられるのが、阿弥陀如来という仏さまのお慈悲です。

そのような阿弥陀如来の救いに出遇ったことを喜び、感謝のお念仏を称えながら、生きて死ぬいのちを精いっぱい生きていく道があります。

ウイルスで 死ぬのではない
生まれてきたから 死ぬのだ
いまさら 驚くことか：
生きて 死ぬいのちを
生きて いる



浄土真宗本願寺派（西本願寺）



ポスターのデータと
メッセージの詳細は
ホームページに掲載しています。